

序 文

私が「点穴療法」を創立したのは、1956年のことです。この療法は注射もせず、薬も飲まず、ただ、施術者の両手だけで一定の方法に従って操作すれば、著しい効果が得られます。多くの人々と患者さんから良い評判を得て歓迎を受けたので、実践を通して発展してきました。そのうちに手法も豊富になって、理論も充実してきました。これは『点穴療法』（重編本）の出版に充実した基盤を築きました。

『点穴療法』（重編本）は1981年に中国陝西省科学技術出版社により出版され、全国で発売されました。読者にとり、この本は読みやすく、わかりやすく、身につけやすく、また効果がある。患者さんにとっては、老若男女どんな人でも気軽にこの治療が受けられる。このような特徴があるので、この本が発行されたあと、全国各地の読者から大きな反応がありました。1988年までに、この本は7回印刷され、20万冊あまり発行されました。そこで、次第に全国に普及し、医療衛生事業の一部となっています。私はこのような療法は、人々の健康のために世界各国に紹介する必要があると思っています。

中国と日本は友好的な隣邦です。私は『点穴療法』の著者として、この友好関係の発展を促進し深めるため、微力を尽して、この療法を日本の人々に紹介したいと思っています。

『点穴療法』（重編本）の翻訳を著者の弟子である廖赤虹君に委託し、日本で翻訳出版することになりました。著者の願いがいよいよ実現することに喜びを感じつつこの序文を書きました。

馬 秀 棠

1989年に西安市赤十字病院に於いて

目 次

日本語版序文	馬 秀 棠
馬先生と馬氏氣功点穴療法	廖 赤 虹
前 言	馬 秀 棠

第 I 部 基礎知識

第 1 章 点穴療法の原理	3
第 1 節 点穴療法とは	3
第 2 節 点穴と経絡の関係	4
第 3 節 点穴の臓腑に対する影響	4
第 4 節 点穴の営・衛・気・血に対する作用	5
第 5 節 経絡と臓腑との関係	7
第 2 章 点穴療法の手法	9
第 1 節 平揉法	9
1. 左右平揉の標準	11
2. 左右平揉と補瀉	11
3. 平揉法的作用	14
4. 平揉法の応用	15
第 2 節 圧放法	15
1. 圧放法の標準	16
2. 圧放法の補	17
3. 圧放法的作用	17
4. 圧放法の応用	18
附・平揉法と圧放法の具体的操作標準	18

1. 操作の快慢度〔速度〕	18
2. 操作の軽重度〔強さ〕	18
3. 平揉の円の大きさ	19
4. 圧放法の圧と放の距離〔深さ〕	20
第3節 皮膚点打法	20
1. 皮膚点打法の作用	20
2. 皮膚点打法の応用	22
第4節 経絡循按法	22
1. 経絡循按法の補瀉	22
〈附〉経絡循推補瀉	23
2. 経絡循按法の作用	26
3. 経絡循按法の応用	26
第5節 五行連用法	26
1. 5種類の手法の名称	27
2. 五行連用法の操作順序	27
3. 五行連用法の操作法とその理論	27
(1) 点打	27
(2) 摩推	28
(3) 骨圧放	29
(4) 振顫	29
(5) 左右平揉	30
4. 井・榮・兪・経・合	32
第6節 他の補助手法	32
1. 頭部推運法	33
2. 背部循圧法	35
3. 振顫法	36
4. 四肢揺運法	37
5. 圧穴法	39
6. 切穴法	40

7. 抖振法	41
8. 切揺法	42
9. 捏穴法	43
10. 推頸項法	43
11. 圧頸動脈弾人迎法	44
12. 撫背法	45
13. 圧脊法	47
14. 按住分縴法	49
15. 拳挫法	49

第3章 点穴療法の注意事項51

第1節 点穴者の態度	51
第2節 点穴療法の準備	51
第3節 点穴の注意事項	52
第4節 点穴療法の取穴の標準	52
1. 骨度分寸定位法	52
2. 手指同身寸定位法	52
3. 体表目印定位法	54

第4章 十四経の循行・病候および常用穴56

第1節 手の太陰肺経	56
1. 肺経の循行	56
2. 肺経の病候	56
3. 肺経の常用穴	56
中府.....58 雲門.....58 尺沢.....58 列欠.....58 経渠.....58	
太淵.....59 魚際.....59 少商.....59	
4. 配穴の例	59
第2節 手の陽明大腸経	60
1. 大腸経の循行経路	60

2. 大腸経の病候	60
3. 大腸経の常用穴	60
商陽	60
二間	62
三間	62
合谷	62
陽谿	62
偏歴	62
手の三里	63
曲池	63
肩髃	63
迎香	63
4. 配穴の例	63
第3節 足の陽明胃経	64
1. 胃経の循行経路	64
2. 胃経の病候	64
3. 胃経の常用穴	66
四白	66
地倉	66
大迎	66
頰車	66
下関	66
頭維	67
気舎	67
屋翳	67
不容	67
承満	67
梁門	67
天枢	68
水道	68
帰来	68
気衝	68
陰市	68
梁丘	68
犢鼻	68
足の三里	69
豊隆	69
解谿	69
衝陽	69
陷谷	70
内庭	70
厲兌	70
4. 配穴の例	70
第4節 足の太陰脾経	71
1. 脾経の循行経路	71
2. 脾経の病候	71
3. 脾経の常用穴	71
隠白	71
大都	71
太白	73
公孫	73
商丘	73
三陰交	73
陰陵泉	73
血海	74
大包	74
4. 配穴の例	74
第5節 手の少陰心経	74
1. 心経の循行経路	74
2. 心経の病候	76
3. 心経の常用穴	76
極泉	76
少海	76
靈道	76
通里	76
神門	77
少府	77
少衝	77
4. 配穴の例	77

第6節 手の太陽小腸経	78
1. 小腸経の循行	78
2. 小腸経の病候	78
3. 小腸経の常用穴	78
少沢	78
前谷	78
後谿	80
腕骨	80
陽谷	80
支正	80
小海	80
臑兪	80
肩外兪	81
肩中兪	81
天容	81
聴宮	81
4. 配穴の例	81
第7節 足の太陽膀胱経	82
1. 膀胱経の循行経路	82
2. 膀胱経の病候	82
3. 膀胱経の常用穴	82
攢竹	82
通天	82
天柱	84
大杼	84
風門	84
肺兪	84
心兪	84
膈兪	84
肝兪	85
胆兪	85
脾兪	85
胃兪	85
三焦兪	85
腎兪	86
気海兪	86
大腸兪	86
小腸兪	86
膀胱兪	86
次髎	86
会陽	86
承扶	87
委中	87
膏肓兪	87
志室	87
承山	87
飛陽	88
崑崙	88
申脈	88
京骨	88
束骨	88
通谷	89
至陰	89
4. 配穴の例	89
第8節 足の少陰腎経	90
1. 腎経の循行経路	90
2. 腎経の病候	90
3. 腎経の常用穴	90
湧泉	90
然谷	90
太谿	92
大鐘	92
照海	92
復溜	92
陰谷	92
兪府	92
4. 配穴の例	93
第9節 手の厥陰心包経	93
1. 心包経の循行経路	93

2. 心包経の病候	93
3. 心包経の常用穴	93
天池	93
曲沢	95
間使	95
内関	95
大陵	95
勞宮	95
中衝	95
4. 配穴の例	96
第10節 手の少陽三焦経	96
1. 三焦経の循行経路	96
2. 三焦経の病候	96
3. 三焦経の常用穴	98
関衝	98
液門	98
中渚	98
陽池	98
外関	98
支溝	99
天井	99
肩髃	99
翳風	99
耳門	99
糸竹空	99
4. 配穴の例	100
第11節 足の少陽胆経	100
1. 胆経の循行経路	100
2. 胆経の病候	100
3. 胆経の常用穴	102
瞳子髎	102
聴会	102
率谷	102
完骨	102
陽白	102
頭の臨泣	102
腦空	103
風池	103
肩井	103
日月	103
京門	103
帶脈	103
居髎	104
環跳	104
風市	104
足の陽関	104
陽陵泉	104
光明	104
陽輔	105
懸鐘〔絶骨〕	105
丘墟	105
足の臨泣	105
地五会	105
俠谿	105
足の竅陰	106
4. 配穴の例	106
第12節 足の厥陰肝経	106
1. 肝経の循行経路	106
2. 肝経の病候	108
3. 肝経の常用穴	108
大敦	108
行间	108
太衝	108
中封	109
蠡溝	109

膝関……109 曲泉……109 章門……109 期門……109	
4. 配穴の例 ……………	110
第13節 督脈 ……………	110
1. 督脈の循行経路 ……………	110
2. 督脈の病候 ……………	110
3. 督脈の常用穴 ……………	110
腰俞……110 腰の陽関……112 命門……112 筋縮……112	
至陽……112 身柱……112 陶道……112 大椎……113 瘻門……113	
風府……113 後頂……113 百会……113 前頂……113 上星……114	
水溝〔人中〕 ……114	
4. 配穴の例 ……………	114
第14節 任脈 ……………	114
1. 任脈の循行経路 ……………	114
2. 任脈の病候 ……………	114
3. 任脈の常用穴 ……………	116
会陰……116 中極……116 関元……116 石門……116 気海……116	
神闕……116 下脘……117 中脘……117 上脘……117 巨闕……117	
膻中……117 玉堂……117 華蓋……118 璇璣……118 天突……118	
廉泉……118 承漿……118	
4. 配穴の例 ……………	118
第5章 常用の経外奇穴 ……………	120
百勞……120 項強……120 頸綜……120 腰眼……120 腰夾脊……120	
三角……121 膝眼……121 闌尾……121 鶴頂……121	
第6章 点穴療法の基本配穴方法 ……………	124
1. 臟腑俞穴と募穴 ……………	124
2. 原穴・絡穴 ……………	124
3. 八会穴 ……………	125

4. 八脈交会穴	125
5. 局部取穴	125
6. 遠道取穴	126
7. 循経取穴	126

第7章 発気治療の原理と方法

第1節 発気治療の原理	127
1. 発気の過程と経路	127
2. 発気点穴の作用	128
第2節 発気の種類	128
1. 動気法	128
2. 静気法	129
3. 和気法	129
(1) 手掌用気法	129
(2) 撫背用気法	129
(3) 発気法的応用	129

第II部 臨床治療

第1章 内科疾患

第1節 半身不随	133
第2節 高血圧症（肝陽上越）	135
第3節 痿症〔四肢の運動麻痺〕	137
第4節 感冒	139
第5節 嘔吐	141
第6節 慢性下痢（脾腎虚寒）	143
第7節 細菌性下痢（痢疾）	144
第8節 便秘	146
第9節 遺精	147

第10節	陽痿〔インポテンツ〕	148
第11節	失眠〔不眠症〕	149
第12節	咳嗽（気管支炎）	151
第13節	頭痛	153
第14節	脳震盪	154
第15節	眩暈	155
第16節	動悸	156
第17節	胃痛（慢性胃炎・胃酸過多・消化性潰瘍等）	157
第18節	脇肋脹痛（肝炎）	160
第19節	腰腿痛	162
第20節	肩腕痛	164
第21節	腿膝痛	166
第22節	胸背痛	168
第23節	失語	169
第24節	頻尿	170
第25節	夜尿症	171
第26節	臆躁（ヒステリー）	172
第27節	癩症〔てんかん〕	173
第28節	橈骨神経麻痺	175
第2章	婦人科疾患	176
第1節	生理不順	176
第2節	生理痛	177
第3節	経閉	178
第4節	崩漏〔子宮出血〕	180
第3章	小児疾患	183
第1節	小児発熱	183
第2節	吐瀉〔嘔吐と下痢〕	184

第3節	小児消化不良	185
第4節	小児驚愕反応 (省略)	186
第5節	耳下腺炎〔おたふくかぜ〕	187
第6節	百日咳	188
第7節	小児麻痺	189
第4章	外科疾患	193
第1節	頸リンパ腺炎	193
第2節	脱肛	193
第3節	疝気〔ヘルニア〕	194
第4節	捻挫	195
第5節	落枕〔寝ちがえ〕	196
第6節	甲状腺腫	198
第7節	注射による局部腫脹 (省略)	199
第8節	虫垂炎	199
第9節	蜂窩織炎 (省略)	200
第10節	蕁麻疹	200
第5章	五官科疾患	202
第1節	耳鳴り	202
第2節	慢性中耳炎	203
第3節	外耳道炎	203
第4節	歯痛	204
第5節	鼻出血	206
第6節	咽痛	207
第7節	顔面神経麻痺	208
第8節	開口障害 (省略)	209